

もくじ

1

有島武郎
自筆原稿の収蔵

2

平成24年度
活動報告

3

未発表資料紹介
平成24年度
資料収蔵報告

4

学芸部門活動報告
書籍紹介
事務室だより

有島武郎
自筆資料の収蔵

平成二十四年度、当館では多くの有島武郎関連肉筆資料を購入・収蔵いたしました。有島武郎自筆原稿「雑信一束」全二十三枚は、当館開館三十三年目にして初めての、武郎の作品自筆原稿の収蔵となります。その他、武郎が妹・愛に贈った「有島武郎著作集」十三点、柳宗悦、足助素一、森本厚吉、黒百合会会員が武郎に宛てた書簡二十七点を収蔵しました。これらの資料は、「ニセコ町ふるさと基金」に頂戴した浄財を原資として、購入致しました。皆様のご好意に厚く感謝申し上げます。

(一) 有島武郎自筆原稿

「雑信一束」

この原稿は、一九二二(大正十一)年三月発行された雑誌『我等』四十一号に掲載されたものである。その後、同年九月に発行された叢文閣発行の有島武郎著作集第十五輯『藝術と生活』に、一部内容を改めた上で「片信」と改題して掲載された。

「雑信一束」は、『我等』が創刊された一九一九(大正八)年以来、断続的に掲載された武郎のエッセイの一つであり、

これが七回掲載されたうちの最終回にあたる。各回ともに書簡体(手紙風の文体)で書かれており、本原稿にある「A兄」とは、札幌農学校以来親交があり、武郎の著作を多く出版した叢文閣社主である足助素一とされている。本作品の内容は、この前年に武郎が労働問題について論じた「宣言一つ」に対する批判に相應る形をとっている。



本資料の各原稿用紙には、「我等別口」の押印があり、『我等』に入稿されたものである。赤字等は本誌編集部によるものである。「片信」で削除された部分(平林初之輔に関する記述など)に

ついては、そのまま残存している。したがって、『藝術と生活』に原稿を叢文閣に入稿する際は、活字化された(雑誌として出版された)『我等』そのものに加筆の上、なされたのではないかと推定される。原稿用紙は「東京文房堂製」全二十三枚。

(二) 有島武郎 山本愛宛

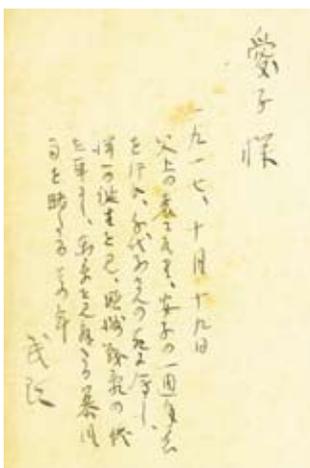
「有島武郎著作集」十三冊

有島武郎が実妹・山本愛氏に献呈文を添えて贈った「有島武郎著作集」十三冊を収蔵した。愛氏は、一八八〇(明治三三)年、東京生。武郎のすぐ下の妹に当たり、幼少時代には宣教師宅やミッションスクールで武郎と一緒に学んだことなどから、武郎は愛を大変可愛がったという。一八七九(明治三十)年、山本直良氏と結婚。直良は、現・ニセコ町の原野貸下申請を武郎の父・武に代わって行ったほか、軽井沢に三笠ホテルを建設し、一大避暑地として築き上げた。両氏の令息・直忠氏は作曲家・指揮者、その令孫は作曲家・指揮者の山本直純氏、平成二十四年七月に当館演奏会にご出演頂いたオルガニストの湯浅照子氏という音楽一家である。

山本愛宛「有島武郎著作集」献呈文一覧

一輯「初版」…愛子様 一九一七、十月十

九日 父上の喪■■■、安子の一周忌を行ひ、千代子さんの死に会し、洋一の誕生を見、欧州戦線の惨を耳にし、東京を見舞たる暴風雨を賭したるその年 武郎(ペン)、二輯「初版」…愛子様一九一七 十二月 著者(毛筆)、三輯「初版」…愛子様 一九一八 二月十八日 著者(毛筆)、四輯「初版」…愛子様 一九一八 五月拾日 於病床 著者(毛筆)、五輯「初版」…愛子様一九一八 七月上旬 著者(ペン)、七輯「九版」…山本愛子様 一九一八 十一月著者(ペン)、八輯「十六版」…愛子様 一九一九 六月 著者(毛筆)、九輯「十二版」…愛子様 一九一九六月二十三日 著者(ペン)、十輯「初版」…愛子様一九一九、十二月 著者(ペン)、十一輯「初版」…愛子様 一九二〇 六月七日 著者(ペン)、十三輯「初版」…山本愛子様 一九二二 五月十一日(毛筆)、十四輯「初版」…愛子様 一九二二 五月十日 著者(ペン)、十五輯「初版」…山本愛子様 一九二二 八月十三日 著者(ペン)



平成二十四年度 活動報告

一、展示事業

(一) 常設展示室

来場者数

二百三十一人

〔平成二十四年一月一日～平成二十四年三月三十一日〕

七千三百二十九人

〔平成二十四年四月一日～平成二十四年十二月三十一日〕

(二) 常設展示室内小展示室 (二階)

新収藏品展2012 第一期

期間 平成二十四年六月九日～平成二十四年十二月二十八日

新収藏品展2012 第二期

期間 平成二十五年一月十一日～平成二十五年三月三十一日

(三) 特別展示室(有島アートギャラリー)

小山正洋展

期間 平成二十四年六月九日～平成二十四年九月三十日

しりべしミュージアムロード共同展

ヘンシン!ニセコ

期間 平成二十四年七月二十日～平成二十四年九月三十日

第二十四回有島武郎青少年公募絵画展

期間 平成二十四年十月二十七日～平成二十四年十一月十一日

応募点数 二百七十四点

入賞・入選点数 百三十四点

有島武郎賞

「甘い香りに誘われて」

高村知穂(小樽市立松ヶ枝中学校三年)

平成の「生れ出づる悩み」2012
期間 平成二十四年十二月二十二日～平成二十四年二月三日



二、普及事業

星座忌(共催事業)

日時 平成二十四年六月九日

十三時開始

場所 有島記念館アートホール及び有島記念公園

参加者 五十三人

主催 土の香りの会

星座忌特別講演会「『宣言一つ』から現代へ」3・11以後の有島武郎」(共催事業)

日時 平成二十四年六月九日

十三時半開始

講師 中村三春(北海道大学大学院文学研究科教授)

参加者 五十人

主催 土の香りの会

湯浅照子オルガンコンサート

日時 平成二十四年七月二十八日

十三時開始

出演 湯浅照子(オルガニスト・有島武郎大姪)、小林恵子(演奏補助)

出演 湯浅照子(オルガニスト・有島武郎大姪)、小林恵子(演奏補助)

参加者 百二十八人

演奏曲 J・S・バッハ「コラール」、G・ベーム「まことなるみ神よ」による変奏曲、助川敏弥「レクイエム(鎮魂歌)」、山本直忠「主なる神」など

こども絵画教室

日時 平成二十四年八月一日

十三時開始

講師 小山正洋(画家)

参加者 十人

ペン画絵手紙教室

日時 平成二十四年八月四日

十三時開始

講師 小山正洋(画家)

参加者 八人

朗読と音楽の調べ

日時 平成二十四年九月一日

十四時開始

出演 朗読者・田村英一(HBCアナウンサー)、演奏者・明楽みゆき(チェンバロ奏者)

参加者 七十四人

朗読作品…八木義徳作品「油絵の文體」、「漁夫画家」、有島武郎作品「生れ出づる悩み」

「カインの末裔」、演奏曲…J・S・バッハ「アヴェマリア」、G・ヘンデル「オンブラマイフ」、W・バード「パヴァーヌ」、山田耕筰「この道」など

能登谷安紀子ヴァイオリンリサイタル

日時 平成二十四年十一月三日

十四時半開始

出演 能登谷安紀子(ヴァイオリニスト)、友清祐子(ピアノリスト)

参加者 百六人

演奏曲 ハチャトウリアン、ドヴォルザーク、能登谷安紀子作曲「春夏秋冬」、「そよ風」、「おとぎ話」、「リリスのクリスマス」など

第二十四回有島武郎青少年公募絵画展 表彰式

日時 平成二十四年十一月三日

十三時開始

講師 野本醇(画家)

参加者 百五十一人

「女性カルテットによるニセコ・クラシックコンサート」(共催事業)

日時 平成二十五年二月三日

十五時開始

出演 メルコルカ・オラフスドッティア(フルート)、レベッカ・マタヨシ(ヴィオラ)、アンドレア・クレサテル(チェロ)、チャン・スージン(ヴァイオリン)

参加者 九十二人

主催 H P A Cカルテットコンサート実行委員会

第十三回有島宮山登山会

日時 平成二十四年三月十六日

場所 有島記念館及び宮山周辺

参加者 二十二二人

(敬称略)

※普及事業の開催場所は、特記した事業以外は館内アートホールで実施しています。

三、マスコミへの露出

(一) 新聞報道

○「有島武郎のペン画発見」平成二十四年五月二十九日北海道新聞朝刊全道版第一社会面、○「新発見のペン画公開」平成二十四年六月八日北海道新聞朝刊小樽後志版、○「ひと後志 有島の資料収集に基金を 伊藤大介さん」平成二十四年六月二十二日北海道新聞朝刊小樽後志版、○「札幌で発見、有島著作集13巻 記念館であす公開」平成二十四年七月二十七日北海道新聞朝刊小樽後志版、○「有島作品朗読と弦楽器演奏鑑賞」平成二十四年八月三十一日北海道新聞朝刊小樽後志版、○「アート探訪 ニセコ観光の飛躍期す」平成二十四年九月三日北海道新聞朝刊文化面、○「有島武郎の旧農場 今も輝く「理想郷」」平成二十四年十月二十日北海道新聞朝刊小樽後志版、○「青少年絵画展 有島賞に高村さん」平成二十四年十月二十三日北海道新聞朝刊第四社会面、○「初挑戦 快挙喜ぶ 思うまま描いたイチゴで有島賞」平成二十四年十一月一日北海道新聞朝刊小樽後志版、○「若手作家 感性キラリ」平成二十四年十一月十日北海道新聞朝刊小樽後志版、○「有島武郎 自筆でつづる悩み」平成二十五年一月十日北海道新聞朝刊全道版第一社会面、○「有島武郎自筆原稿の意義」平成二十五年三月七日北海道新聞夕刊文化面

(二) ラジオ報道

○平成二十四年六月二十日「わがまちのミュージアム 有島記念館」NHK第一(北海道)、○平成二十四年十月二十四日「ニセコ・グディ」AIRRIG、○平

成二十四年十月二十五日「Kirra 綺羅 Niseko 有島記念館学芸員・伊藤大介」ラジオニセコ

(三) その他
○平成二十四年六月二十四日放映テレビ番組「遠くへ行きたい第二一一一回」日本テレビ、○「広報ニセコ」連載「こんにちは有島記念館です」平成二十四年五月、九、十一月号、

未発表資料紹介

有島武郎 垣内豊子宛書簡(封書・巻紙「封筒・書面ともに表装済」 墨書)
平成二十三年度、川中なほ子氏(東京在住)より有島武郎ペン画「羅馬古城壁原画」、「有島武郎 垣内豊子宛書簡」、写真一点、川中氏著書二点を受贈した。当館では、ペン画については今年度に実施した「新収蔵品展」にて公開。新聞などで報道されたこともあり、多くのお客様に観覧頂いた。書簡については、北海道文学館・三井沙紀司書と当館学芸員とで翻刻作業を進めた結果、このほど一定の成果が得られたため、本館報にて紹介する。

本書簡の受取人であり、ご寄贈者の川中なほ子氏の母堂である垣内豊子氏は、有島武郎の講演を聴講したのを契機に、有島と親交を深めた。大正十年代の有島の日記にもその名前が散見される。豊子氏の父君・垣内豊三郎氏は貿易商を営んでおり、豊三郎氏は東京・王子に那須塩原の景色に模して大庭園を造成。その庭園で、有島と垣内家の家族が集う写真も、今回ご寄贈いただいている。庭園は、現在、「名主の滝公園」(東京都北区)とし

て開放されている。ご寄贈頂いた資料は、以上のような垣内家と有島との関係から、有島が豊子氏またはご家族に贈呈されたものと伝えられている。この書簡については、今後、当館展示にて公開予定である。

垣内豊子様

今日もしめやかな雨がふつてあるので私は幸福を感じてゐます。雨が好きだといつたら毎日毎日の糧の為に働いてゐる人達の心を思ひやることを■じない無慈悲な心だと友から罵られたことを存分に覚えてゐながらも雨の私に齎してくれる祝福を捨てる事が出来ません。

この間はようこそお訪ね下さいました。下さった花もまだ美しく咲きつづけています。あの花の咲きほこる頃に私に教へていた人達が双手にあまる程毎日野からあの花を摘んで持ってきてくれた昔を思い出します。其花の高い香の為に夜■■なかつたことを思ひ出します。東京に移つてからも送つてくれたのに無惨に志ほれてゐたので歌をよんでみたことも思ひ出します。其歌■かしで美しきもの皆よろし鈴蘭のとくしぼめる

が美しきかな

今朝何やら女のやうに感傷的な手紙を書いてしまひました。御手紙はあなたに「愛と認識との出發」をお届けするといふことをおしらせするのでしたのに。
弟御さんにもよろしく。御大事に十分お勉強なさひ。

五月十一日朝 ■

有島生

府下王子町九五八

垣内豊子様

平信

麹町区下六番町一〇

有島武郎

五月十一日朝

平成二十四年度資料収蔵報告

(一) 寄贈

○小林拓子様(ニセコ町)より「樺太地図」一点、○佐藤慶太郎様(札幌市)より「吉川銀之丞氏写真」四点、○半澤直子様(札幌市)より「有島武郎 半澤洵宛大正五年年賀状」一点、○平山洋子様(ニセコ町)より「絵画」一点、○横田雅治様(東京都)より「急行ニセコ号 C62 運行最終日記念券」一点、○吉田裕子様(東京都)より「有島武郎墓所写真」十二点

この他、全国の文学館、美術館をはじめとする博物館施設や個人から、図録、年報、歌集など多くの資料寄贈を受けました。紙幅の都合上、本欄では割愛致しますが、厚く御礼申し上げます。

(二) 購入

○有島武郎 山本愛宛署名入『有島武郎著作集』全十三点、有島武郎自筆原稿『雑信一束』全二十三枚、○有島武郎関連書簡二十六点、○宮部金吾博士旧蔵書有島武郎著『一房の葡萄』他、有島武郎をはじめとする書籍を購入・収蔵しています。

以上の寄贈・購入資料については、適切な保存処理や資料自体の調査終了後、閲覧・公開に供します(一部、プライバシーに関わる資料に関しては、この限りではありません)。一部資料の詳細は、次号以降の館報「収蔵資料紹介」欄にて紹介する予定です。

学芸部門活動報告

資料の保存については、平成二十四年度は前年度からの図書資料、逐次刊行物(雑誌資料)、特別資料(書画、愛蔵品、有島農場関連資料など)の登録作業を進めるとともに、収蔵庫扉の二重化、特別資料保存用棚の新設などを行いました。平成二十五年度は、収蔵庫内の薫蒸作業を行い、カビや害虫などの滅殺処理を行う予定です。

調査・研究活動については、平成二十三、二十四年度に受贈・購入した資料に関する調査、企画展実施に関する調査・研究などを実施しました。それらの成果のうち、論文等については以下の通りです(学芸員 伊藤大介)。

○伊藤大介「アート探訪「ニセコ観光の飛躍期」平成二十四年九月三日、北海道新聞朝刊文化面、○伊藤大介「有島記念館の資料に関する問題点及び現況」平成二十四年十月発行、全国文学館協議会会報第五十四号、○伊藤大介「有島記念館」平成二十五年三月、北

海道美術館学芸員研究協議会会報第二十一号、○伊藤大介「有島武郎ペン画「羅馬古城壁」について」平成二十五年三月発行、全国文学館協議会紀要第六号、○伊藤大介「有島武郎自筆原稿の意義」平成二十五年三月七日北海道新聞夕刊文化面

書籍紹介

全国文学館協議会編「増補改訂版 全国文学館ガイド」定価千八百円(税込)

二〇一三年発行 発行・小学館

二〇〇五年に刊行された「全国文学館ガイド」が増補改訂されて、このほど出版されました。本書は、全国にある文学館施設やそれらの施設が所蔵する文学資料、オリジナルグッズなどが紹介され、「文学館巡り」には必須の一冊です。当館も詳しく紹介されており、有島武郎研究者である中村三春・北海道大学大学院教授が当館に寄せたエッセイも添えられている他、有島兄弟が袖を通した「インバネスコート」が写真つきで紹介されており、本書は、全国の書店にて購入できます。



事務室だより

静まりかえった館内を、開館に向けて準備をはじめます。

一つ一つスイッチを入れ、冷暖房をつけていく。私の日課である武郎のポर्टレートに「おはよう」のあいさつも忘れない。

ふと窓の外に目が留まる。粉雪がやむ事を忘れたように、降り続けている。羊蹄山はすっかり姿をかくし、息をひそめてじっとしている。事務室の窓。それは沢山の季節を私に届けてくれる。高くせりたつ雪のかべは、きらきらと暖かい日差しにゆっくり、ゆっくり、形を変え、気がつくときと淡いみどりの芽に葉をかえる。かおりたつような春の風が窓の外から記念館に流れこむ。

なんだか私はそわそわした、うれしいような、くすぐったいような、そんな気持ちでいっぱいだ。風は人々の笑い声、話し声、足音をのせてきます。ゆっくりと読書をする人、音楽、絵画、自然の音記念館で過ごす人達の姿が、窓の外で色づくみどりのように、この場所をみたくしていく。

さあ開館の時間です。うれしい一日のはじまりです。(受付・み)



有島記念館

〒048-1531 北海道虻田郡二セコ町字有島57番地
TEL 0136-44-3245 FAX 0136-55-8484
e-mail arishima@town.niseko.lg.jp

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(5月から9月は無休)
年末年始(12月31日~1月5日)

駐車場 自家用車用約15台・大型バス用約5台

常設展観覧料

一般500円、中学生100円

20名以上の団体は400円。小学生以下と二セコ町在住の68歳以上は無料。

交通アクセス

自家用車 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
JR 二セコ駅より徒歩約30分(約2.5km.)、タクシー5分
バス 道南バス[俱知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分

